

# 平成28年度大阪府立八尾支援学校 第1回学校協議会報告

平成28年7月12日

□日 時 平成28年7月12日(金) 午前10時～12時

□場 所 大阪府立八尾支援学校 多目的室2

□テーマ

- ・平成28年度学校協議会委員の紹介
- ・平成28年度学校協議会事務局の紹介
- ・平成28年度学校協議会長の選出
- ・学校協議会実施要項(案)
- ・平成28年度八尾支援学校概要
- ・学校より報告

## □学校協議会委員

岡崎 裕子	(大阪大谷大学 教育学部 教授 学長補佐)
奥野 美和子	(東大阪子ども家庭センター 課長補佐)
御前 敬	(八尾市障害福祉課 課長)
佐藤 早苗	(東大阪市療育センター 第一はばたき園 園長)
西原 直美	(本校PTA 会長)
山崎 高義	(東大阪市障害者就業・支援センター 所長)

## □学校協議会事務局

渋川 雅宏	(教頭・小/高)	山田 美也子	(教頭・中)
小林 俊雄	(事務長)	荒木 智恵子	(首席)
井川 忠都	(首席)	横山 眞二	(首席)
山本 耕平	(首席)	松村 由美	(部主事・小)
長谷川 次郎	(部主事・中)	谷 浩美	(部主事・高)

## □協議会 内容

### 1 学校長挨拶

一昨年度末東校において生起した体罰事象について深謝するとともに、昨年度4月には保護者向け説明会を行い、保護者にアンケートも取らせていただき取り組んできた。

来年は創立50周年を迎える。大きな節目に向けさらに充実した教育となるように進め、また地域のセンター的機能を発揮するべく邁進する。秋にはまた学校教育自己診断を実施する。委員の皆様にはご意見をたくさん賜りたい。

### 2 平成28年度学校協議会委員の紹介

### 3 平成28年度学校協議会事務局の紹介

#### 4 平成28年度学校協議会長の選出

会長 岡崎 裕子 様（大阪大谷大学 教育学部 教授 学長補佐）

#### 5 学校協議会 実施要項（案）

○保護者からの意見書について

- ・保護者の方から2件の提出があった。ご意見について、真摯に受け止め検討する。
- ・意見書の送付方法は、学校協議会のメールアドレスへの送信、学校宛に封書にて郵送、みんなの相談ポストへの投函の3方法としている。

#### 6 平成28年度八尾支援学校概要

○学校経営方針

小学部・中学部

2年前に赴任して、教員に専門性のある者もいるが学校組織としてどうかという点で、専門性を高める必要があると感じた。また、地域への貢献をもっと進める必要がある。そのことを本年度の学校経営計画に「めざす学校像」として盛り込んでいる。4本柱として、中期的目標（3年のスパンをめどとした）を掲げている。

- ①「支援学校における教育力の向上、組織としての専門性向上」としては、どれも大事であるが、とくに（2）の自閉スペクトラム症をはじめとした発達障がいのある児童・生徒の教育の充実、また（4）のミドル・アップダウン型の学校経営の促進について挙げる。本校の職員の平均年齢は35歳で、若い者や1校目の教員が多い。次期ミドルリーダーに当たる、中軸になる者の意見を吸い上げつつ、校長の理念を具現化する。
- ②「自立・自己実現、社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実」では、昨年5年ぶりに小・中・高の学部がそろったので、その学部のつながり・連携を密にした教育の充実を図る。
- ③「センター的機能の充実・発揮と、開かれた学校の推進」として、さまざまな発信を高めていく。
- ④「安全・安心な学校づくりの推進」では、人権・防災・施設の各分野で促進を図る。特に「施設」に関しては、今年度大規模改修の予算がつき、基本設計を行い30年度に実施する運びである。
- ①の細かい内容として、昨年度「視覚的支援」についてアンケートを実施しハンドブックにまとめたが、今年度新しい取り組みとして「合理的配慮」についてのアンケートを実施する。「視覚的支援」に限らず広く「合理的配慮」としての取り組みを洗い出し、まとめることにより専門性を高める。
- ②の細かい内容として、「ライフスキル」について保護者に調査する。「キャリア教育」というものについて、自己診断でもまだまだ浸透していない様子が伺えるので、「ライフスキル」という具体的な内容を念頭に、理解を深めていただきたいと考える。
- ③の細かい内容として、昨年度地域の学校のリーディングスタッフやコーディネーターの先生方にアンケートを取り、そこから「拠点校型の地域支援」を中心とした体制の構築を考え、今年度推進していきたい。

- ④の細かい内容として、人権についての取り組みを児童・生徒に返していく。具体的には人権週間での各部の取り組み（作文や絵画など）、人権文化発表会にて展示参加するなど。

【質疑応答、ご意見】

Q：めざす学校像は変わっていないか。（委員 A）

A：ベースになるところは変わっていない。4つの柱のコンセプトも同様である。

Q：「キャリア教育」がもうひとつわからなかった。（委員 D）

A：子どもたちの自立に向けて取り組む教育。社会参加に向けて、狭い意味は「就労支援」となるが、小・中の教育課程をふまえて広い意味での教育をさす。例えば、偏食がなくなる、身辺自立などが基盤として大切である。子どもの発達段階に応じて展開していく。

A：今は広い意味で、発達段階に応じて力をつけていく、という風になっている。

Q：全部このような細かい数値を設定しないといけない？（委員 A）

A：定めないといけないことになっている。

ご意見：自己診断で、「90%以上を増やす」などあるが、これは驚くべき数字である。いろいろな意見があってよいと思う。90以上よりも、75%の項目について高めるという方がよいのでは、と考えたりする。自己診断の「そう思う（Yes）」を増やすということで、このような内容だが、90%の中にある少数の意見についてもしっかり受け止めてほしい（委員 A）

A：自己診断の自由記述欄でご意見をいただいている。

ご意見：「キャリア教育」のところでの新しい取り組みについて、自己診断を受けてされるということだが、これが本来の形であると思う。このような改善への取り組みにたいへん期待している。（委員 A）

Q：「キャリア教育」で出ていたライフスキルというところから、学校生活の後のところ、即ち預けるところでの生活のあり方をどうみるか、が自立支援協議会などでわりと話題となっている。デイサービスに行っている子どもが多いが、確かに生活が充実するし安心して暮らせると思う。それについてどうお考えか。（委員 D）

A：25年度の法改正から、出入りするデイサービスの事業所もたいへん増えた。保護者が契約を結ばれてのことだが、ニーズによってデイに行く子どもも増えている。お仕事等保護者の事情もおありだと思うのでコメントしづらいところがあるが、子どもたちの新たな生活の場であり、個別の支援計画に基き、学校と福祉の連携を図るという点で言えば、見学したい、話し合いたい等あれば連携はしていきたいと考える。

ご意見：高等部になってからこのようにしておけばよかった、ということの小・中に下ろしていければ良い（委員 A）

ご意見：高等部卒業間際になってから熱心に動かれる方が多いが、小・中から、進路についての流れとか、社会資源についてとか知るようになっていただければと思う。ライフスキルを含め、小・中・高と連携することが大切である。（委員 F）

## 高等部

- ①の「支援学校における教育力の向上」のところでは、(2) 生徒個々への指導力の向上として、学部を超えた授業見学を年間2回行うことを課している。
- ②の「キャリア教育・進路指導の充実」のところでは、まず学校へ毎日登校できるように、登校支援に力を入れる。また企業就学、作業所実習の充実を図る。また、今年度キャリア教育PTを立ち上げたので、キャリア能力に関する評価測定を行うための指標を検討していく予定である。
- ③の「センター的機能の充実と開かれた学校の推進」のところでは、発達障がい理解について進め、高等学校へも伝え、アピールしていく。

## 【質疑応答、ご意見】

ご意見：就労してから夏休みまでに離職するケースが多い。卒業してすぐ就労することが全てではない、長く続けていくことが大切だと感じる。在学中に「社会ってこんなところ」ということを知る機会があれば良い。社会資源を在学中から知っておいてほしい。(委員F)

A：家庭の状況や本人の特技・能力等のマッチングが大切だと考えている。

ご意見：作業所の種類等の情報を早期から提供しておいてほしい。また、近頃は企業が多様な形で迎え入れようとするようになってきているので、小・中学部段階なども含め、将来一般就労は無理とあきらめないでほしい。(委員F)

○各学部紹介 (別冊 各学部の「教育相談のしおり」を参照に)

## 小学部

- 基本的な生活習慣、身辺自立を意識しており、「せいかつ」の時間を重要と捉えている。スキルだけでなく、教師との信頼関係の構築を基盤とするべく大切に考えている。
- 集団遊びなどを通して人間関係を築いていくため、「遊び」に関しても重点をおいている。
- 学校間交流は、上之島小学校と年3回程度行っている。上之島小学校の4年生と小学部4・5・6年が交流している。
- 今年度1～3年で、午後からの授業設定のある日を一日増やした。

## 中学部

- 課題として、在籍人数がたいへん多いことが挙げられる。
- 特徴的な教科として、「作業」を設定している。また、国語・社会・数学・理科と今年度授業の名称を挙げ学習を行うように時間割を設定した。
- 課内クラブ的な活動として「わくわくタイム」を実施している。
- 進路状況について説明。通学区域割の変更に伴い、進路先が複雑化した。

## 高等部

- 教科においても、日常生活に結びつく内容を重点的に設定し学んでいる。
- 企業体験実習後にそれぞれで報告会も実施し、情報共有をしながら、生徒のプレゼンテーション力向上もめざしている。外に出てさまざまな経験を行う機会を増やすことも大切にしている。

- 高等部は職業コース（フロンティアコース）を設置しており、高等部 1 年については、2 学期からコースが分かれる。
- 3 種類の課外クラブ活動も行っている。

○進路指導部より 平成 27 年度卒業生の進路状況について（報告）

- 高等部 3 年間で実習を 5 回行っている。施設・作業所見学会（小学部から高等部までの保護者対象）を計画している。

## 7 授業アンケート 集計結果

年 3 回実施する予定である。1 学期の結果として、肯定的意見が多いが、否定的意見は教員にも返し、改善を求めて行っている。

### ★質疑応答

Q：「児童・生徒は、授業の内容に・・・」とあったとき、「わが子だけを指すのか全体を見て答えるのか」今更だがどちらか、と思う。（委員 E）

A：捉え方は二つある。保護者の方の自由な視点でお答えいただいてもよい。

学校より：「授業以外の様子も見たい」という要望に応え、昨年より 1 学期に「参観期間」として設定している。朝のランニングから参観できるということで、校内全面駐車禁止で実施。来年度に向けて、内容・期間についても検討していく。

ご意見：着実に改革は進めていただいている。（委員 A）

### **その他ご意見や質疑応答**

ご意見：意見書については、学校に対応をお願いしたい。（委員 A）

Q：中学部の人数が多いが、増えているのか？（委員 A）

A：府下を見ても増えている。通学区域割が適切でなかったのでは。中学部は、八尾市・東大阪市の全域から来るので、減らない。

Q：知的障がいはないが、不登校であったり、試験がないという理由で進学する生徒はいるのか？（委員 F）

A：ごく少数ではあるが、そういうケースもある。支援学校として、セーフティーネットになる必要もある。

ご意見：ニーズが多様になってきている。その都度捉えてやっていくしかない。改革してがんばっておられる。ご意見をいろいろして、先生方を支援していきたい。（委員 A）

## 8 准校長挨拶

様々なご指摘をいただき、大変感謝している。今後の学校経営に活かしていきたい。